

## 省エネルギー対策事例（参考）

一般的に公表されている省エネルギー対策の例とその効果を示しています。  
学内に該当する機器等はどれくらいありますか？

### 〈いますぐ出来る省エネルギー対策〉

#### ◇照明

1. 使用していない場所（事務室、廊下、トイレなど）の照明の消灯  
・人感センサーにより人がいない場所（廊下、トイレ）を消灯した場合→常時点灯に対して消費電力が約1/3
2. 昼休み等における消灯  
・昼休み消灯（全点灯率80%→56%）した場合→照明電力消費量が約2.4%削減
3. 照明器具の清掃  
・汚れによる明るさの低下率→1年で約85%、2年で約80%
4. 白熱電球を電球型蛍光灯に交換  
・白熱電球（54W）を電球型蛍光灯（12W）に交換→明るさは同じで、消費電力が約1/4

#### ◇冷暖房機器

1. 適切な温度設定管理（設定温度 夏：28℃、冬：20℃）  
・冷暖房の設定温度を「1℃変更」→消費エネルギーが約10%削減
2. 使用していない部屋の冷暖房の電源OFF  
・冷房を1日1時間短縮した場合（設定温度28度）→1台当たり約410円/年の節約（家庭用エアコンの場合）  
・暖房を1日1時間短縮した場合（設定温度20度）→1台当たり約900円/年の節約（家庭用エアコンの場合）
3. フィルターの清掃  
・フィルターを月に1,2回清掃した場合→1台当たり約700円/年の節約（家庭用エアコンの場合）
4. オフシーズンには、電源プラグをコンセントから抜く  
・電源プラグを抜き、待機時消費電力を削減した場合→1台当たり約130円/年の節約（家庭用エアコンの場合）

#### ◇温水洗浄便座

1. 洗浄水の温度設定管理  
・洗浄水の温度設定を年間1段階下げた（中→弱）場合→1台当たり約300円/年の節約（貯湯式の場合）
2. 暖房便座の温度設定管理  
・便座の温度設定を1段階下げた（中→弱）場合  
→1台当たり約580円/年の節約（夏場（6～9月）は、電源OFF）（貯湯式の場合）
3. 使用しないときはフタを閉める。  
・フタを閉めた場合→開放しの場合に対して1台当たり約770円/年の節約（貯湯式の場合）

#### ◇OA機器

1. パソコン未使用時の電源OFF  
・1日1時間電源OFFした場合→デスクトップ型では、1台当たり約690円/年の節約  
ノート型では、1台当たり約120円/年の節約
2. パソコン、コピー機の省電力設定  
・電源オプションを「モーター電源OFF」から「システムスタンバイ」にした場合→デスクトップ型では、1台当たり約280円/年の節約  
ノート型では、1台当たり約30円/年の節約

#### ◇水道

1. 節水コマによる節水  
・節水コマの使用→最大約50%の節水（水栓の開度による）
2. 泡沫水洗及びスプレー水栓による節水  
・泡沫水洗の使用→約20%の節水、スプレー水栓の使用→約30%の節水
3. 止水栓の開度調整（圧力の減調整）

### 〈更に効果を得るための省エネ対策〉

#### ◇その他

1. 照明器具を高効率照明器具（Hfインバータ安定器）に更新  
・従来型照明器具40W型3灯をHf照明器具32W型2灯に更新→明るさは同じで、消費電力が約2/3
2. 空調機を省エネ性能の優れている製品に更新  
・空調機（4kW以下の直吹き壁掛け形冷暖房）を更新→1台当たりの消費電力が10年前に比べ約1/3
3. 実験用冷蔵庫を省エネ性能の優れている製品に更新  
・従来型冷蔵庫（代替フロン製品）を省エネ性能の優れている製品（ノンフロン製品）に更新→  
1台当たりの消費電力が10年前に比べ約1/2
4. その他、省エネラベル（緑色のマーク）の表示のある製品への更新
5. 一斉休業  
・例えば、年間7日一斉休業した場合（1週間/52週間）→年間の消費電力が約1%削減

※省エネラベル：省エネ性能の優れている製品（省エネ基準達成率が100%以上の製品）に表示されるラベル。